

コルリ *Luscinia cyane* (Pallas)

【選定理由】

夏期に山地の落葉広葉樹林に飛来して生息するが、繁殖地は標高の高い山地にある原生林や二次林に限定されるため、県内における繁殖環境は限られている。段戸裏谷では原生林の環境が変化して本種の生息数に増加傾向がみられるが、県内の二次林は必ずしも良好に保全されていない。

【形態】

全長 14cm。雄は、頭頂から上尾筒にかけて上面が一様な暗青色で、喉から下尾筒にかけて下面は白色、額は明るい青色で、目先から側胸にかけて黒色部がある。雌は全体がオリーブ褐色で、腰から尾にかけて青色味があるものが多い。脚は長めで肉色。



石川県, 2001年5月5日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では、東三河北東部や西三河北東部にある標高 700m 程度以上の原生林や二次林に飛来して繁殖する。春秋の渡りの季節には、半島部や平野部なども通過する。

【国内の分布】

夏期に北海道や本州中部以北に飛来して繁殖する。

【世界の分布】

シベリア南部からアムール、サハリン、中国東北部、朝鮮半島で繁殖し、冬期はインドのアッサムから東南アジアに生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では標高 700m 程度以上にある原生林や二次林に飛来し、地上の物陰に広葉樹の枯枝や枯葉などでわん形の巣を作って繁殖する。繁殖期は藪の中や低木の樹冠の下などで、チツ、チツ、チツ・・・と次第に早くなる前奏のあとに、ヒン、カラララ・・・とか、チュカチュカチュカなどと大きな声で囀る。ヒン、カラララ・・・と鳴く部分はコマドリ *Erithacus akahige* に似ているが、前奏のチツ、チツ、チツ・・・を加えることや、チュカチュカチュカという囀りを混ぜることで、コマドリの囀りとの識別が容易になる。地上をホッピングしながら昆虫を捕食するが、灌木の実なども食べる。春の渡りは4月下旬から5月中旬、秋は9月から10月であるが、秋は鳴かないので記録が少ない。

【現在の生息状況／減少の要因】

繁殖地は、県内東部の標高 700m 以上にある原生林や二次林である。野鳥の生息数は長い周期で増減を繰り返しているようで実態は不明であるが、同様の環境で繁殖する在来種の大半で減少が著しい。減少の要因は観光開発と道路建設、およびそれに伴う人や車の増加と考えられる。

【保全上の留意点】

標高が高く林業生産に適さない地形や場所にある人工林については、伐採を実施して本来の針広混交林や落葉広葉樹林に復元するべきである。

【特記事項】

県内で唯一生息数が増えている段戸裏谷をはじめ県内にある標高 1,000m 程度の山の大半では、2014年頃から下草のスズタケに花が咲き、2019年現在林床は全て枯れ果てている。ウグイス *Cettia diphone* や外来種のソウシチョウ *Leiothrix lutea* には大きな減少傾向がみられるが、他の山を含め本種の数には、他種のように急激な減少傾向はみられていない。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.266. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)